



学 園 だ よ り

発行 社会福祉法人 上の原学園

住所 茨城県桜川市上野原地新田159-1 Tel.0296-75-2509 (代)

ホームページアドレス <http://www.u-gaku.or.jp/>

こ ぶ し 辛 夷 花 号外

夏 平 成 二 十 六 年





根岸町より寄贈された神輿(左)

旧上の原学園の神輿(右)

今回、平成二十六年三月末、筑西市根岸町内会様の神輿寄贈により、上の原学園神輿が新しく生まれ変わりました。

桜川、筑西市の祭が終わわり、振り返ってみると、色々な人たちの協力無くしては実現出来なかつた事であると身に染みています。

私は、筑西市に生まれ、物心ついた頃から筑西市の文化に触れてきました。子供の頃から神輿が好きで、根岸町内会の神輿を担ぎ、大人の言う事を聞かないワンパクな子供でした。よく世話人の町内会のおじさん達を困らせていた事を今も記憶しています。

今、根岸町町内会も筑西市の中心部にありながら、過疎化や町の人の高齢化が進み、町の人達も昔の事を懐かしむ事はあつても、現実が高齢化の為、夏祭りに参加する事や、町内会で神輿を出す事が、二十五年以上も出来ずにいました。

町を歩けば、「昔が懐かしいねえ。うちの町内も他の町内と同じ様に神輿を出したいけど、過疎化の問題で人が居なくて、子供もいないから寂しいねえ」との声を聴き、私も子供の頃から世話になりました。町内に何か恩返し出来ないか考えていました。

そんな頃、根岸町内より当法人への神輿寄贈の話が舞い込んできました。私は、『地域と障がい者の共生社会』と言うテーマにチャレンジする良い機会だと考えました。

上の原学園はここ五年ほど地域交流の為、桜川市、筑西市に神輿を出し、地域の人達と障がい者の結びつきを大切にしてきました。

『この機会を使わなければ、子供の頃からお世話になった町内へ恩返しができない』何かに火が付いたように、町内会の寄贈を受け、神輿制作を手掛ける、群馬県(株)日本木工振興へ向かいました。

そこで神輿師の方々に地域福祉や障がい者、地域の文化を守りたい気持ちや、過疎化で苦しんでいる町内へ何かしてあげたい、寄贈された百年物の町に愛されたこの古い神輿を復活させれば、必ず地域の人達と障がい者が繋がると、気持ちを伝えました。神輿師、小野勝先生が、福祉と地域の為に協力するぞ、と言つてもらつた時の喜びは今も覚えています。

こうして無事、新しく生まれ変わった根岸町の神輿が、上の原学園の神輿とし

て七月八日に納入されました。

七月二十六日祭日当日、祭り会場に神輿を持ち込むと、地域の人達がカメラを手に駆け付けてくれました。

地域の人達が喜んで顔を覗く度、やつてよかつたと思えました。

神輿渡御が始まると、利用者・職員が活気づき、気が付けば町の人も参加し、二十五年以上前に根岸町の神輿を担いでいた人達まで障がい者と職員に交じりながら神輿を担いでいる姿を見て、真の共生社会ではないのか、福祉という事をアピールする事だけではなく、自然な形でそこに人が集まり、障がい者も職員も、町の人達も関係なく、一つの物事に進んでいく。その様に今回考えさせられました。

今回の事を通して、お世話になりました皆様に、深く感謝申し上げます。

上の原学園 施設長 小松寄記



(株)日本木工振興の方々と新神輿



根岸町内にて



市内渡御風景



下館駅前風景



筑西わっしょいカーニバル



根岸町町内会様



桜川市長神輿視察風景